

留学報告書
～自身の成長を感じた留学～

マドンナ大学
外国語学部（長期）

私はアメリカ・ミシガン州リボニアにあるマドンナ大学で長期留学を経験しました。マドンナ大学はデトロイトの近郊に位置しており、以前からその名前を聞いたことがあったため、留学前からどんな大学なのかを調べて楽しみにしていました。ミシガン州は四季がはっきりとした地域です。夏は気温が高く日差しがじりじりとした暑さで、秋はきれいな紅葉が広がり、冬はぐんと気温が下がり、雪が沢山降ります。春は桜に似たような花が咲きとてもきれいです。また、自然が豊かで鹿や、ガチョウ、リス、スカンクなどの野生動物を日常的に見ることができます。

マドンナ大学には看護学科やビジネス学部、アート・人文学部など多彩な学問分野があります。特にスポーツに力を入れており、学生の約半数はアスリートとして生活しています。サッカーやバスケ、バレーボール、クロスカントリーや陸上競技など沢山のスポーツ競技があり、マドンナ大学でもよく試合をしています。私は、よく時間があるときにサッカーの試合を友人と見に行きました。もともとはサッカーには興味がありませんでしたが、マドンナ大学で初めてサッカーの試合を観戦して、選手のプレーの迫力に圧倒されました。その為、少しでも興味があるなら試合観戦に行くことをお勧めします。一方で、一般の学生も同じくらい在籍しており、互いに交流しながら学べる環境が整っています。世界各国から学生が集まるため、留学生の数も多く、グローバルな雰囲気にあふれた大学です。また、マドンナ大学は他の大学と比べて日本人留学生が少ないという点も特徴的です。留学当初は、身近に同じ言語を話す人がいないことで、少し不安や寂しさを感じることもありました。特に、寮の手続きなど困ったときに、気軽に相談できる日本人の方がいないのは心細く感じる瞬間もありました。しかし、そのような環境だったからこそ、自分から積極的に英語で話しかける必要があり、自然と現地の学生や先生と英語でコミュニケーションをとる機会が増えました。結果として、毎日の生活や授業、イベントの中で英語を使うことが当たり前になり、語学力を伸ばすには非常に恵まれた環境だったと感じています。英語に囲まれた環境で生活することは決して簡単なことではありませんが、その分、自分の成長を強く実感できると思います。

私たち留学生はまず、ESL(英語を母語としない学生向けのクラス)からスタートします。授業では、リーディング、ライティング、スピーキング、リスニング、文法など英語の基礎から応用までを総合的に学びました。私にとって最も難しかったのはどの授業もディスカッションが多く、留学当初は話すスピードが速く上手く聞き取れなかったり、英語を話

すことに慣れていなかったため、相手に上手く伝えることができなかつたりとコミュニケーションがうまく取れなかったことです。しかし、ESLのクラスはベトナム、ブラジル、アルジェリア、コロンビアなど、様々な国の学生とともに学んでおり、それぞれの文化に触れながら交流できる貴重な機会に恵まれました。実際の英会話を通して、徐々に自分の考えを英語で伝えられるようになり、自信もついてきました。

授業スタイルの違いも大きな学びでした。日本では、先生の話静静地に聞きながらノートを取る受動的な授業が多いのに対し、アメリカではディスカッション中心の授業が多く、学生が自ら意見を述べ、積極的に授業に参加することが求められます。初めはその雰囲気戸惑い、なかなか発言できませんでしたが、先生方はとても親しみやすく、学生一人ひとりの意見に耳を傾けてくれたため、徐々に発言への抵抗感が薄れていきました。また、日々の課題や発表に追われる中で印象に残っているのは、先生方が課題提出や発表の後に、丁寧なアドバイスやフィードバックをくれることです。学生一人ひとりに真摯に向き合ってください姿勢から、教育に対する情熱を強く感じました。ESLでは授業以外にも様々なスクールトリップが企画されており、現地での生活や文化をより深く知る貴重な機会となりました。例えば、地元のプロ野球やNBAのバスケットボールの試合をみんなで観戦したときは、本場の熱気や会場の一体感に圧倒されながらも、アメリカのスポーツ文化を体験することができました。さらに、ボーリング大会ではクラスメイト達とチームを組んで競い合い、大いに盛り上がりました。言語の壁を越えて、クラスメイトとの距離がぐっと縮まった瞬間でした。他にも、歴史的な博物館や美術館を訪れたことで、アメリカの社会や文化への理解も深まりました。

クラスメイトには「シスター」が何人か在籍しており、一緒に学んでいたのですが、とても親切で私のことを妹のように接してくれました。定期的に課題や授業、私生活で困ったことはないかなど何かと気にかけてくれました。また、様々なイベントをクラスで企画してくれて、みんなで食事をしたり、先生方への感謝の企画なども行ったりしました。シスターたちはいつも私に元気を与えてくれる存在でした。現地ですれた友人はとても親切で、私が困っているときにはいつも助けてくれました。授業内容や課題で分からない部分があるとアドバイスをくれたり、間違ったところがあれば丁寧に解説しながら教えてくれたり沢山サポートしてくれました。また、様々なイベントにも誘ってくれました。キャンパスでの音楽フェスやスポーツ観戦、地域のボランティアなどに一緒に参加することで、アメリカの文化や価値観に触れることができました。特に印象に残っているのはハロウィンの仮装イベントやサンクスギビングデー、クリスマス、そして大晦日です。映画を観たり、ご飯を持ち寄ったりしながら過ごす時間は、私にとって特別で大切な思い出です。

多くの言語や文化の違いに戸惑いながらも、多くの人に支えられて私は少しずつ成長することができました。留学当初は、自分から行動する勇気が持てず、消極的になってしま

うこともありましたが、友人やクラスメイト、先生方の姿を見て、自分も「変わりたい」と思うようになりました。少しずつでも自分から一歩を踏み出し、自分の言葉で発信することの大切さを学びました。この経験を通して、私は自分自身と向き合い、成長することができたと思います。留学という挑戦を後押ししてくれた両親、送り出してくれた名古屋学院大学の方々、温かく迎えてくれたマドンナ大学、そして日々支えてくれた友人たちには心から感謝しています。

